

中部日本ニュース

シネスコ版

道新 16148 カクツク 学合フム-札幌 240尺 (本編トアへ追加)

高新 16233 本編同V
新愛媛 1661

No. 398 36.9. 1

中コ新 1674 大石 臣人 以下可-元島 140尺 (本編トアへ追加)

一、栄介ちゃん安らかに

——輸血制度の教訓

AB型RHマイナスという二千人に一人の血液型で心臓の手術ができない市成栄介ちゃんを救う愛の供血運動は、全国に大きな反響を呼びました。

しかし、この血液は日本人には少い上に、従来の輸血制度があいまいで、なかなか集まらず、憔悴を深めていた二十六日、在日米軍が大量供血を申出、八月二十八日、国境を越えた愛の血液によって、手術が行われ、成功しました。

しかし、翌朝、容態は急に悪化、あらゆる手当の甲斐なくついに衰弱した心臓は動かなくなったのです。

栄介ちゃんの死は、人びとの善意を讃えるとともに、輸血制度の確立を訴えています。

日本の断層 第四集

100尺

一、残された戦後

未曾有の繁栄を謳歌する大平ムード。人はすでに戦後ではないといい、誤ちの教訓も今や伝説にさえなろうとしています。

それを物語るかのように荒廃を極める舞鶴港。敗戦以来海外同胞の引揚げは、舞鶴だけでも七十万人を数え、その殆んどが死線をさまよひ逃げるようにして故国の土を踏んだのでした。

だがその故国も死と焦土におおわれ、寄辺ない身を引揚寮に托しました。やがてその人達も新しい生活へと新天地を求めて散っていききました。

ここ宮城県の蔵王山麓に拡がる開拓地は、謂ば引揚の第二の故郷でもあったのです。だが再出発への希望も東の間、なれない仕事と戦後のめまぐるしい景気変動には抗す術もなく豊作の蔭に悲惨な才月を余儀なくされています。

一百平均百万円という借金だけが、開拓十六年の総決算でもあったのです。更らに戦火の悲劇は、還らぬ息子を待ちわびる東京蒲田の上坂さんにも見られます。折からシベリヤ暴参の遺族団一行が去る八月中旬羽田を出発。やがて落莫としたシベリヤの荒野にしめやかに読経の音が流れます。(完)

680尺

100尺

100尺